

2017年9月5日

町田市長
石坂 丈一 様

町田市環境審議会
会長 吉村 義隆

「第二次町田市環境マスタープラン」、「町田生きもの共生プラン」
2016年度進捗状況の点検評価について（報告）

2017年8月4日に開催した第70回町田市環境審議会において、「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」2016年度進捗状況の点検評価を行いました。その結果を、下記のとおり報告いたします。

記

総括

2012年4月策定の「第二次町田市環境マスタープラン」は、2016年度に前期期間が終了しました。2017年度からの5年間は、後期アクションプランに基づき、望ましい環境像「水とみどりとにぎわいの調和した環境都市 まちだ」の実現を引き続き目指してください。

そのために後期は、環境に対する市民意見を的確に施策へ反映することを更に意識し、地域の環境活動団体に対する継続的なサポートなども、検討課題とされることを望みます。施策の着実な進捗管理に関しては、前期同様、妥当性・客観性の担保された評価手段を用いて確認していくよう努めてください。加えて、進捗状況を正確に評価するため、資料は達成目標と重点目標の関連性について、より分かりやすい見せ方を工夫する必要があります。また、パリ協定からのアメリカ離脱等の社会情勢の変化について、国や都の動向も踏まえた動きを常に意識して進めてください。

「町田生きもの共生プラン」は、2015年度から運用を開始し、様々な施策が目標達成に向け動き出しています。今後は、生物多様性の情報拠点となる生物多様性センター「生きものストップ（仮称）」の開設に向けた取り組み推進に加え、連携のための仕組みづくりについても、より発展させていくための具体的取り組みを検討してください。

それぞれの計画について、主な意見は次頁のとおりです。

「第二次町田市環境マスタープラン」について

- **基本目標1** 二酸化炭素排出量削減の達成目標について、補助目標として「市民1人当たりのエネルギー消費量」を掲げる等、取り組みの数値管理を工夫してはどうか。
- 市民意識調査結果については、回答者の世代偏向がわかるような表記をしてはどうか。また、回答者が高齢者に偏らないような調査手法の検討も必要ではないか。
- 市民が環境保全活動を行う上で、具体的な取り組みの指標となるガイドブックのようなものを作っていただきたい。

「町田生きもの共生プラン」

- 生物多様性センター「生きものストップ（仮称）」については、地域の広場的な役割やコミュニティづくりの場としても活用できる施設となるよう、アクセスしやすい立地や多くの人の目に留まるようなPR戦略を十分に検討すべきである。また、普段は生きものと触れ合う機会の少ない市民や、大人だけでなく子どもたちをターゲットに出来るような工夫を期待したい。
- 事業者との連携の可能性を含め、NPO やボランティア団体を市としていかにバックアップしていくかが検討課題である。
- エリアごとの生きものの生息環境を明示して、地区ごとに課題の提示や注意喚起を行っていく必要がある。